

令和元年度 第3回円山川流域懇談会 議事骨子

日 時： 令和元年10月15日(火)15時00分～17時00分
場 所： 円山川防災センター 2階 会議室

■議事次第

1. 開会
2. 挨拶
3. 議題
 - 1) 現地視察の感想、意見交換
 - 2) 平成30年度事業実施報告会の主な意見と対応について [資料2]
 - 3) 進捗点検に関する報告 [資料3]
 - 4) その他
 - ・防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策について [資料4]
 - ・令和2年度 現地視察・事業実施報告会の予定
4. 閉会

■審議内容

1) 現地視察の感想、意見交換

流域懇談会に先立ち実施された現地視察についての感想、意見は以下のとおりであった。

【意見】地元への説明もなされながら、地域のための工事が進んでおり感謝したい。

【意見】中郷遊水地の高度利用や安全対策について関心を持った。流木対策や堤防決壊に対する安全性の確保、補強対策が重要である。

【意見】稲葉川の合流点に土砂が溜まっていたので、除去して欲しい。奈佐川・出石川の掘削にも予算確保いただいており、掘削土砂の資源利活用も有難い。

蓼川井堰の右岸側が破損しかかっているの、土地を買って河岸を固めるなど、県と調整して対策をお願いしたい。

【意見】河道内樹木の伐採に当たり、コブシ等が存在するかもしれないので事前調査をお願いしたい。

日高の神社を移転するのは良いが、背後の森が本来の信仰の対象であるため、巨木を伐採する場合には、祀られてきた歴史を把握するためにも年輪から生育年を調べるべきである。

また、流木が洪水時に被害を拡大するのはわかるが、その流木が河道内樹木起源のものか間伐材なのかによって対策が変わると思う。

【意見】中郷遊水地は、洪水調節だけでなく、世界に誇れる生物に配慮した遊水地として整備して欲しい。

円山川のワンドは、比高が大きい箇所があるが、高さを合わせて下げる必要があるのではないかと。

来日川の環境は優れているので、工事に当たり、既存の生物相を評価して、対象種を守って頂きたい。

【意見】（破堤の多発した）台風19号災害の状況を考えると、粘り強い堤防の整備をして欲しい。

【意見】流域委員会でも議論したが、円山川では下流は早く流す、上流は溜めて遅らせる洪水対策が必要ではないか。

【意見（座長）】日高地区では堤防ができて良くなるが、越水しても壊れないねばり強い堤防が必要である。中郷遊水地は地元の意見を踏まえて整備をして欲しい。

2) 平成30年度事業実施報告会の主な意見と対応について（資料2）

平成30年度事業実施報告会の主な意見と対応について、事務局から資料に基づいて説明があり、それについて以下のような意見が出された。

【意見】P2の側岸形状変化の理由が管理用通路確保のためとしているが、おかしいのではないかと。8m道路を整備するためではないのか。是非そのようにして欲しい。

【意見】遊水地の流木対策への利用について中郷遊水地の場合、その立地から見ると、流入口の工夫次第で流木の流入、一時貯留に活用できるのではないかと。

【意見】流木は、河道内からの樹木か、山からの樹木なのか教えて欲しい。

【回答】把握できていない。今後わかればご報告する。

3) 進捗点検に関する報告（資料3）

進捗点検に関して事務局から資料に基づいて説明があり、それについて以下のような意見が出された。

【意見】万葉集の令和の由来にも関係している、地域由来のフジバカマが豊かに再生されていることを記述すべき。

【意見】越冬時期に見られる鳥類のマップはHPで閲覧できるのか。

【回答】公開していない。マップを利活用いただけるよう考えていく。

【意見】令和元年台風19号災害を受けて、決壊に対する安全度を高めることが求められているが、円山川下流左岸で実施されている連続矢板堤防を、本堤の重要箇所への補強にも適用する検討が重要ではないかと考える。遊水地で掘削して堤防が浅くなっている箇所への杭打ち等の対策は？

【回答】現時点は土質調査が終わったところであり、その結果等に基づいて、必要な措置は施していく。

【意見（座長）】遊水地の囲繞堤に限らないが、一般に矢板は水圧がかかると厳しい状態になる。場合によっては、川裏側からの水圧も考える必要がある。

【意見】P14の「堤防の質的評価」とは何か。

P19の湿地の質的改良では、魚がたくさん確認されたといわれたが、どれくらいか。

【回答】「堤防の質的評価」とは漏水等の危険性を評価したものである。

湿地の質的改良に関しては、モニタリング結果を記述するようにする。

【意見（座長）】平成30年度にはベンケイガニが確認されている。

【意見】環境に関し点検結果は他河川と横並びで比較できないのか。

環境整備は面積だけの整備率を100%とすることが目的ではなく、整備後の環境の質的变化を評価する必要があるのではないかと。

【回答】点検は、項目など内容・方法が河川を管理する事務所毎に決められているため、単純な横並びでの比較はできない。

整備後のモニタリングによる評価等については今後反映方法を検討する。

【意見】p10の中郷遊水地の囲繞堤法面の材料は。

また、p19の湿地の質的改良で掘削した湿地は埋まっていかないのか。

【回答】囲繞堤法面には、コンクリート護岸を張る予定である。

湿地形状については、すぐには埋まらないような形状を検討し、現状は顕著な堆積は見られない。

4) その他

・防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策について

防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策について、事務局から資料に基づいて説明があり、それについて以下のような意見が出された。

【意見】p8の鳥居橋上流のブランチブロックを施工したところに土砂が溜まってきている。破堤した箇所なので、気にかけて欲しい。

【意見（座長）】p1 堤防強化の写真は何を写したもののなのか。

【回答】裏法尻の洗堀防止のブロックである。

・令和2年度 現地視察・事業実施報告会の予定

事務局より令和2年度には事業実施報告会を開催する予定であることが説明された。

以上